

平成23年度

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473500328	事業の開始年月日	平成15年3月1日
		指定年月日	平成15年3月1日
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会		
事業所名	グループホーム クロスハート田谷・栄		
所在地	(〒244-0844) 横浜市栄区田谷町1249		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームは平成15年に開所した。ご入居者が自然にふれあいながら、毎日をゆったりと過ごせるようにと配慮されたつくりで、広大な敷地に設けられた中庭には芝生が敷き詰められ、建物は3棟の平屋建てで入居者はいつでもホーム内を自由に動き回れる。辺りは梅畑や農園に囲まれ春に近くなった頃には、梅の香りに誘われた鶯やリスなどの来訪者を迎えられるという、まさに高齢者の楽園といえる。かといって人里離れた立地ではないので、家族にとっては大船駅からバス10分で面会がかなう立地のよさもある。この恵まれた環境を求めてご入居者希望や職を求めて集まる人も後を絶たない。

自己評価及び外部評価結果

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年9月30日	評価機関 評価決定日	平成23年12月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 このホームはJR大船駅からバスで5分、バス停から徒歩3分と交通アクセスがよく、バスの便数も多い。駐車場も広く利便性が高い。周囲には水田もあり、その先は小高い山へと続き、緑に囲まれた静かな環境にある。隣接して畑があり四季の野菜や花を栽培し、利用者も一緒に収穫して食卓を賑わすこともある。 門を入ると、広い敷地に、芝生と花壇の中庭を囲むように平屋建て3棟が点在している。3ユニットがそれぞれ別棟になっており、いずれも居間やベランダを通り僅かな段差で庭に降りられる。外気浴や散歩時には、気軽に出入れるので便利である。平屋建てなので、災害時は短時間で避難でき、防災上非常に有効である。</p> <p>【理念・指針】 法人理念の「すべてのよきものを人生の先輩たちと後輩たちに捧ぐ」を基盤として、ホームの理念「おしゃれに・おいしく・おつきあい」をモットーにサービスに努めている。理念を実現するための行動指針「クロスハートベーシック」を定めている。職員はネームプレートの裏面に入れて胸に下げ、いつも確認しながらケアに当たっている。</p> <p>【医療体制】 協力医の訪問診療は、内科と整形外科が隔週、精神科が月1回、歯科が毎週受けられる。その他の診療科目は家族が通院介助して外来を受診する。訪問看護師が毎週来訪し、利用者の健康状態をチェックして健康管理をしている。体調に変化があれば、24時間の医療連携体制で対応している。ターミナルケアの体制も整備している。</p> <p>【家族への報告】 家族は来訪時に利用者毎の毎日の様子を記した「ケアノート」を見て、暮らしぶりを知ることができる。家族も気のついたことを書き込み、情報交換している。月間の健康状態、食事摂取、排泄、入浴、睡眠の状況、生活の様子、ホームの対応などをまとめて毎月「たより」を郵送し、情報提供している。災害時は電話がつかないため、家族会の要望により今後はメールで様子を知らせることにした。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム クロスハート田谷・栄
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「すべてのよきものを人生の先輩と後輩たちに捧ぐ」の理念と環境整備がクロスハートの創設者の志であり、スタッフも道路の清掃、環境を整えることに力を入れている。	グループホーム独自の理念である「おいしく、おしゃれに、おつきあい」に沿って職員も入居者も身だしなみを大切にしている。職員は名札の裏に7つの約束「クロスハートベシック」を入れて確認しながらケアに当たっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の会合や地域の祭りや行事に参加し、地元の方々との交流を図っている。	自治会に加入し、回覧板を回したり、行事や防災訓練等に参加したりしている。入居者と共に盆踊りや芋煮会にも参加している。地域住民やボランティアと交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に地域の方々には発信していない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースでは行なえていないが、意見を聴き取り入れている。	今年度は運営推進会議を一度も開催していない。	運営推進会を開催し、地元との情報交換の場として地域に開かれたグループホームを目指すことを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会に出席し市区の担当者の意見意向を聞きサービスの向上に努めている。	隔月に行われる栄区のグループホーム事例検討会や事業所連絡会などで高齢支援課と連携を図っている。また、認知症実践者研修受講生の実習を引き受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に職員を積極的に参加させ、理解や認識を深め全体会議の場で報告も行なっている。	7月に参加したリスクマネジメントの外部研修の内容報告を8月に全体会議で行い、身体拘束廃止について学習した。言葉による拘束もしないように現場で注意している。庭の門扉の施錠はあるが、各ユニット玄関の施錠はしておらず、利用者は自由に中庭を散歩できる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の理念に徹底し虐待は起こりえないと確信しており、研修が開催されれば職員を参加させ、全体会議の場で報告を行なっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修会への参加をスタッフに促しており、全体会議の場で発表し周知させている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明書を読み合わせ、契約内容を説明し、質疑応答を時間をかけて実施している。解約時も同様である。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には意見希望など時々問いかけ、出された意見要望は真摯に受け止め、スタッフ間で話し合いすぐに改善できるものは改善している。	家族会が年に1~2回行われており、その際に職員から意見を聞いている。各居室に「ケアノート」を置き、家族とのコミュニケーションを図っている。ガーデンパーティーを開催した折に、家族から「震災時にはメールで安否確認をして欲しい」との意見が出たので、了承し、今後の運営に反映させることにした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に機会を設けてはいないが、職員からの意見はその都度良く出てきており反映している。記録は特にとっていない。	申し送りノートや月1回の全体ミーティングで職員は意見を言っている。職員は、出勤時間をユニット毎に変更する、隣家との目隠しの植木の垣根を板塀に変える等の提案を行い、実施された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を行い、どういふことをして行きたいかの希望を聞き、その要望を踏まえ研修などに参加してもらいシフトを調整し出勤扱いにしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には管理者が選んで出席をさせている。職員自身が参加の希望があればそれに対応している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	栄区内にあるグループホームの管理者が集まり、2ヶ月に1度会合を開き、交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に訪問調査を行い、ご家族やご本人に今までの生活スタイルや趣味嗜好などを訊き、ホームでの生活にできるだけ反映している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の申し込みや見学の際には出来るだけ管理者が立会い、グループホームにおけるサービスを説明し、求めている物に合うか相談し、訪問調査時にも改めて説明しご家族と共に確認している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」のご本人様の状態とご家族様の考えを考慮し、他の事業所やサービスが適切と考えられる場合はその他のサービス機関への紹介をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が今まで歩んできた人生経験を尊重し、できることを進んでご本人様ができる環境を作り、生活をしていく上でわからないことはスタッフ間で話し合うのではなく、ご本人様に入っただき、共に考えていける関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族と職員と一緒に生活を考えていき、常に連絡を取り合い、相談・確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通してのご友人の来訪や個人宛のお手紙のお返事を書くお手伝い等をしている。	友人等が来所した際は、居室で湯茶や菓子のもてなしを行って関係継続の支援をしている。思い出の地にドライブに行ったり、美容院へ同行するなどの支援を行っている。昔懐かしい食べ物などもリクエストに応じて提供している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を考えて、口論など起こらないよう食卓の席の配置、リビングの座られる場所など気配りしている。仲の良い利用者様同士お茶にお誘いなどしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後ご家族と歌会をして頂いたり関係を保てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	計画作成担当者はケアプランを作成するに当たり、希望が言える方はケアプランに反映させている。	入居の際にアンケートで情報収集するほか、日常の会話の中からの訴えを大切に、聞き逃さないように配慮している。アセスメントシートで職歴や馴染みの土地を確認し、話題を提供している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には訪問調査へ伺い生活環境を確認し、その時にご本人の生活サイクルをご家族へ聞き取りもしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは記録をとる事により一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する時はご家族への希望を聞き、内容をスタッフ間で話し合い出来るだけ反映させている。	個別カンファレンスは3か月に一度の更新ごとに行っている。ご家族の意向は更新時に伺っている。更新時には職員が評価について検討し、意見を集約して次の目標を立てている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は2種あり毎日記録するものとトピックスを記録するものとあり、これを通して職員間での共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚙下状態を見極め、食事のミキサー対応や嗜好に応じて提供するものを換えたりしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事へは参加し、ご入居者様の刺激にもなっている。町内会にも配慮をいただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医は2週に1回、希望者のみで整形外科は月2回（不定期）、精神科は4週に1回往診に来てくれている。	入居者全員が協力医の往診と訪問看護を受けている。整形外科や精神科の往診も希望があれば受けられる。その他の診療科目の外来受診は家族対応となるが、実費で職員の支援も受けられる。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師が来訪しご入居者様の状態をチェックしてくれており、体調変化があれば24時間対応してくれている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いには頻繁に伺い、可能であれば医師や看護師から情報を得たり、退院に向けての話し合いには参加するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には重度化や終末期についてはタイミング計ってお話し、家族間での意思統一もお願いしている。その際に事業所として可能な事、不可能な事も説明している。	重度化対応の指針は入居時に説明している。意思確認をその都度行い、ターミナルに備えている。看取りの経験は4件あり、医師や看護師との連携も取られている。職員は看護師が行う研修に参加している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立会いの訓練時に心臓マッサージの体験や実際に119への連絡の体験をしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行う時には夜勤帯想定での避難訓練も行っている。町内会主催の防災訓練にもスタッフを派遣し地域との連携もとっている。	年に2度の防災訓練を行っている。スプリンクラーも設置済みで夜間想定での訓練も行っている。防災訓練の際は大家の参加があるが、町内の住民の協力は少ない。町内の防災訓練には管理者が参加している。備蓄は3日分用意されている。	3月の災害時の経験を活かし、災害時の協力体制を再確認し、広く町内に声掛けをして、防災訓練に参加を呼び掛けることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大先輩を支える事を常に意識し、その人に合った声掛けや行動をし、常に見直しも行う。	利用者を「人生の先輩として」敬意を払って言葉遣いに注意をしており、基本的に敬語で接している。室内に入るときはノックをして声掛けしてから入っている。新人研修のときに接遇マニュアルに則って教育している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	先ずはご入居者に意向を確認してから行動をする様にし、理解しやすい言葉掛けを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人の意思に沿って過ごしてもらいたいが、介護度が高い方は職員主導で決まることも多い。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際に服を選んで戴いたり、好みの美容室にお連れしたり、ポータによる訪問美容も受けられるようにしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事参加が出来る人には積極的に参加してもらったり、買い物に付き添える方には行っていただき、食材を選んでもらったりしている。	テーブルに小さな草花を飾り会話を楽しむようにしている。畑でできた野菜を季節ごとに収穫し、食事に提供している。配膳や下膳、調理を手伝う利用者もあり、和やかに職員と会話をしながら食事をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぼできているが、食事が摂れない時は代用食や形態を変えたり、水分はトロミを使用したりしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は本人に任せており、介助が必要な方は不穏にならない程度に行なっている。定期的に訪問歯科医の往診を受けている方もいる。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本的には個人個人で時間を見ているが、落ち着かなくなったりしたり、食前食後には排泄介助を心がけている。	排泄チェック表の記録から個別に排泄パターンを把握し、声をかけ、居室のトイレまで誘導し排泄の支援を行っている。リハビリパンツを使用している方も必ずトイレで座り、自力で排泄できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や散歩へのお誘いはできるだけ行ない、予防に努めている。医師への相談も行い、下剤等の処方もしてもらっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日行なっているが、大体14時から16時位の間で行なっている。入浴者はサイクルで大体決まっているが本人希望を優先している。	2日おきに必ず入浴するように声掛けをしている。入浴剤やしょうぶ湯、ゆず湯といった行事浴も行っている。寝付けない利用者には夜間にシャワー浴に誘うなど、臨機応変に対応している。浴室はバリアフリーで、後付けの水圧リフトを設置し、立ち上がりが困難な利用者でも安全に入浴ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床介助が必要な方はスタッフが時間を見計らってベッドへ誘導している。午睡も必要と思われるときには誘導している。自立の方は本人任せにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は薬局からもらう情報を個人ファイルに綴じてありスタッフに確認するように喚起している。隔週の医師の往診時に体調の変化やご様子を報告し薬の調整をしている。緊急時には院内処方が出され、預かっている薬から処方に従って投薬している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が得意なこと、楽しみ事をスタッフで把握し、支援するようにしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お出かけの支援は出来るだけしている。ADLのばらつきもあり全員一緒には難しいが、少人数での対応をしている。御家族にも声をかけ、外出可能な方は積極的に家族と一緒に外出をしている。	希望を聞いてドライブや外出に行っている。天気の良い日は買い物に出かけたり、畑仕事に誘ったりしている。中庭にテーブルを出してお茶を楽しむこともある。中庭には容易に出られ、敷地内を自由に散歩できる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身での金銭管理に関しては、ご家族に説明し了承があれば毎月決めた金額をお渡しし、買い物終了後には収支を合わせている。それ以外の方はこちらで管理しており、ご本人様のご自身の買い物を希望されれば、スタッフ付き添いのもとご自身で支払いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば電話を掛けたり、手紙はこちらから促し、書いていただいたりもしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる空間作りを目指し、音楽をかけたりしている。日差しが強い日には暗くなりすぎないように、カーテンをしている。	中庭を平屋造りの3つの建物が取り囲んでいる。屋内は抑えたインテリアで「大人の住環境」を大切に無駄な飾りを排除している。窓から差し込む光を計算し、カーテンで調整している。間接照明で気持ちが落ち着くよう工夫されている。各所に生花を飾り季節感を大切にしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中には食事をするテーブルのほかにソファがあり、個人の時間やご入居者様同士がお話出来る環境を整えている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居されるときには持ち込みの家具には制限は特に無く、安全が確保できる範囲で使い慣れたものをお持ち頂いている。	各居室には庭に面した大きな窓があり明るい。床暖房とエアコン、トイレが各室についている。それぞれにテーブルや椅子、ソファ、タンスや仏壇を持ち込んでいる。家族の写真やご自身の作品を飾り、居心地の良い空間を作っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはテブラで名前を貼り、自室の認識が薄い方には、その都度、居室まで誘導し混乱を避けている。トイレは基本的には誘導を行っておりトイレまでスタッフが付き添っている。		

平成 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473500328	事業の開始年月日	平成15年3月1日
		指定年月日	平成15年3月1日
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会		
事業所名	グループホーム クロスハート田谷・栄		
所在地	(〒 244-0844) 横浜市栄区田谷町1 2 4 9		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	クロスハート田谷・栄
ユニット名	A棟

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とクロスハートベシックに基づき、「おもてなしの心」や「地域のお役に立つ」ことを意識し、道路の清掃等をしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近所の方が赤ちゃんを連れて来て下さったりしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの外出の際、認知症の方が困っているのを見つけたスタッフが、その方のご家族と連絡を取り、安全を確保したことがある。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はまだ会議を開催していない。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会などに出席し、担当者との関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、拘束をしないケアについて考え、取り組んでいる。門扉のみ施錠はしているが、居室や建物の出入り口は開けられるようになっている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加した職員が全体会議で報告をしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加した職員が全体会議で報告をし、話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に管理者が説明をし、疑問点等に答える時間を充分にとっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的なコミュニケーションから意見や要望を伺った時は管理者に伝え情報共有している。年に一回の外部評価も良い機会になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや毎日の申し送りで意見を聞き、取り入れている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等で個々の目標について話し合い、法人の評価基準や就業規則に基づいて職員が働きやすいよう、配慮している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のクロスハートカレッジには、年度内に全職員が出席できるように、スケジュールが立てられている。また、外部の研修にも積極的に参加するよう、管理者が促したり職員の希望に沿うようにしたりしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会や研修会などに参加し、同業者の意見を聞く機会になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後1週間は特に注意深く本人の言葉や行動を記録し、要望を言うことが難しい方に関しても不安を軽減できるようなケアに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居の際に要望等を聞き、心配なく過ごしていただけるよう、ホームでの様子を報告したり、コミュニケーションをとったりしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居して環境が変わったばかりで混乱しやすい時期であることを念頭に置き、その方の言葉や行動からどのような支援が必要かを常に考えて話し合っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護されている」という気持ちにならないよう、言葉遣いに配慮し、ご本人の意思や思いつきを尊重し、調理や洗濯などできる事は一緒に行なっている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に頻繁に相談し、改善策を一緒に考えたり、ケアプランにも散歩など家族が担当する内容を入れたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とご本人が希望された場合は昔からの友人の訪問も可能で、ご本人からお手紙を出すことを手伝ったりしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が会話を交わすことができるよう食事の席に配慮し、コミュニケーションがとりにくい方同士の場合は職員が間に入ってフォローしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方のご家族が月に1回歌の会を開いてくださっている。またその知人の方の介護の相談を受けることもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時及びケアプランの更新の際にご本人の希望を伺っているほか、日常の様子からご本人が何を望んでいるのかを探っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に訪問調査にて生活環境の把握に努めており、入居後はセンター方式の一部を取り入れ、ご家族の協力も得て生活歴を理解するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりについて生活の記録に日中・夜間のご様子を記録している。ケアプラン更新時にはアセスメントによりできること・できないことを把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望を伺い、医師・看護師やマッサージ師の意見を取り入れてケアカンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を「生活の記録」に記入し、「ケアノート」には特別なことやご家族のコメントなど色々なことを記入し、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者が重度化しても食事の内容によって提供する形態を変えたりしている(食べられそうなものはミキサーにこだわらない、等)。また面会の時間を制限していない。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の赤ちゃんボランティアにより活気付いたり、車椅子でも行くことのできるお店や公園等を把握して外出したりしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が希望された場合、往診は内科・整形外科が2週に1回、精神科が月に1回、歯科が毎週受けることができ、各医師と連携を図っている。他の医療機関を受診する事も可能である		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護で体調やメンタル面など相談している。また24時間のオンコール体制があり、緊急時・体調不良時に看護師に電話で相談することができる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては病院のソーシャルワーカーの方と情報交換をし、医師からご家族への説明の際はできるだけ同席させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご入居の際に重度化した場合の対応について意向を聞き、ご状態に変化があった時などもその都度確認している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応についての研修に参加している。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の避難訓練を行い、うち1回は夜間を想定している。全体会議でも防災について話している。3月の震災発生時は全ご入居者が迅速に中庭に避難することができた。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを職員全員が意識し、言葉遣いに注意している。特に排泄に関する声かけは、自尊心を傷つけないよう配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	離床・食事その他ほとんどの場面でご本人がどうしたいかを伺った上で介助をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	眠りたい時や気分の良くない時は食事の時間をずらして召し上がって頂いたり、外に出たい時は一緒に散歩をしたりしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服を一緒に選んだり、入居前毎日お化粧をしていた方にはお化粧をしていつも綺麗でいられるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には調理の一過程を行なっていただいたり、食器を拭いて頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食材・献立は委託で行なっており、カロリーや塩分が計算されているものを一人ひとりに合った食事形態で提供できるよう、調理を工夫している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>ご自分でできる方には声掛けのみ行なっているが、その他の方には毎食後口腔ケアをしている。希望された方は歯科往診の日に歯科衛生士による口腔ケアを受けている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排尿量の多い方は頻繁にトイレにお連れするなどして、できるだけ失敗しないようにしている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘しやすい方には乳製品やオリゴ糖などの摂取をすすめ、散歩して歩いていただくようにしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の曜日や時間帯は決めていない。前日入られた方でも希望があれば入浴していただいている。その時の気分を重視して入浴介助を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気の強い時は居室で横になったり、疲れている時はソファで休んだりしていただいている。入床・起床時間は特に決めておらず、その方にあった時間で休んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変更になった際は特に副作用や用量を確認し、体調を注意して観察している。不明点は医師や薬剤師に問い合わせしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好品も参考にしているが、それにとらわれるのではなく「今」その方のやりたい事、できる事を重視して気分転換を図っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行き先まで当日の希望にすることは難しいが、外出の機会をつくるようにしている。お誕生日などに普段行けない場所にマンツーマンで出掛けることもある。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は管理できない方が多いが、ご自分でお金を使いたい方は、ご家族の了承の上、小額のお金をお財布に入れて所持している。買い物で残額が少なくなったら補充している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族が希望される場合につないでいる。手紙もご家族の了承を得ている相手とのやり取りは支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯によってカーテンで日当たりを調整し、窓の外の季節の花や木が見えるようにしている。照明は明るすぎず、落ち着くトーンにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも同じ場所にいるのではなく、その日の気分によってテーブルやソファを利用して一人でもくつろげるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持って来られると良いと入居前に伝えている。居室の広さや安全性を考慮して新調されることも多い。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ること、わかる事を把握して、居室からリビングまで歩く際につかまる場所を確保するなど環境を整えている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500321	事業の開始年月日	15.3.15	
		指定年月日		
法人名	社会福祉法人伸こう会			
事業所名	グループホーム・クロスハート田谷・栄			
所在地	(244 - 084) 横浜市栄区田谷町1248			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
			通い定員	名
			宿泊定員	名
	○ 認知症対応型共同生活介護		定員計	27名
			ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	2011.8.30	評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日	23.9.30	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	クロスハート田谷・栄
ユニット名	C棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	町内の催し物、掃除などに積極的に参加し地域との交流を図ろうと努めている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所のボランティアの申し出を積極的に受入て近隣との交流を図っている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり活かしているとはいえない		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この一年入居者の入れ代わりが激しくて忙しく落ち着いて運営推進委員会が開催できなかった		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長・ケアマネが対外交渉に積極的に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎年職員の幾人かが身体拘束をしないケアの講習に出席しホームの会議で学んだことを伝えている。弊社では徹底して拘束しないケアを実践している</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関しても講習会に職員を積極的に送っている。高齢者に対する尊敬の念を持つ事が理念の一つである当事業所において虐待が起こることはまずない</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>当事業所では成年後見人制度Iを利用しちる入居者が4名おり、施設長も講習会などに参加し取り組み支援を強化している</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に重要事項説明の時間を設け詳細に説明している。また毎月のお便りで変更があればおしらせし必要ならば個別に説明もしている</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問時またはケアプラン送付時に家族の意見要望をお聞きしているまた毎年外部評価を受けご家族の赤裸々な意見・気持ちを表せる機会を設けている</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や毎日もたれている申し送りの時間に職員は自分の意見・提案を述べる機会が与えられている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規定に従い就業環境は整備され施設長も労働環境の向上に努めている		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人はwキャストで先輩について取得できるまで1対1で学ぶ事が出来る・また外部の研修会にも積極的に参加を勧めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	実践者研修などで他ホームで実習しよい所を取り入れている。他ホームとの相互実習は実践できていない		
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は24時間シートを作成し本人の言葉言動をスタッフの対応を書きとめ分析し本人の要望気持ちを汲み取り安心して暮らせる生活の場を提供できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の中にはご自分の要望・必要とする助けなど充分表現できない方もおられるのでご家族に詳細に伝えていただき最善のケアが提供できるようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	24時間シート、できる事できない事シートなど1週間記録して必要な支援を家族とも話し合っ決めてケアプランを立てている必要なら他のサービスを受けることも勧めている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方その方にあった家事を共にこなし食後の一時は楽しい歓談時間を持っている		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアノートを用いて本人のご様子や変化などつぶさに個別に記録してご家族の来訪時に読んでいただいている。家族との議出も積極的に支援している		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	来訪や電話連絡、手紙絵手紙の送付など本人の要望があれば支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席次、食卓での席次など一人ひとりの性格や友好関係を配慮しお膳立てしている。孤立している方はおられない		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去され契約終了となる方が多い。没後も家族の方がボランティアとして2~3名来てくださっている。重症化された退去された方には見舞いに行くなど関係を保っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中でより良い生活を送っていただく為に本人の希望・要望は何か絶えず問うている。話せない方や動けない方に対しても同様である。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に詳細にお聞きし記録に残しケアの参考にしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月毎にケアプランを更新する際、お変わらないかまたどう変化ッされたかアセスメントを取り現状の把握を踏まえてケアプランを立てている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン更新時にはケース会議を開きスタッフが意見やアイデアを出し合ってそのかたに今必要なケアをプランに上げるようにしている</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日、「生活の記録」と個別に「ケアノート」をつけ職員の気づきや工夫は「申し送りノート」に記してスタッフ間の情報の共有を図っている</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>空き室がある時は短期入居が可能である</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>町内会の催し、盆踊りや芋煮会には出席させていただいている。赤ちゃんボランティアなどにも来ていただいている</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>公田クリニックに依頼し2週ごとの往診を受けている。精神科は小林クリニックに4週ごと往診してもらっている。かかりつけ医に家族が付き添う事もある</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師と密に連携し突発的な疾病、怪我、転倒時には指示を仰ぎ対処している。週1来訪し一人一人の入居者を綿密にチェックしてくれている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院より連絡を受け施設長・スタッフ・家族が医師の説明を受け退院日を決め受け入れに備えている</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>実践している。かかりつけ医、ご家族、スタッフと話し合いの場を設けどのように最後を迎えられるのが良いのかご希望に添える終末介護実践している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署から来ていただいて講習会を開いてもらい応急処置の仕方など職員はまなんでいる。又訪問看護師による吸引の仕方の講習会なども持っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2度ほど避難訓練を地域の協力者と共に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当法人の基本理念は「人生の先輩にすべての良き物を捧ぐ」であり敬語を持って接する様指導しており、実践している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のこまごまでご自分の意志が伝達できる方には自己決定していただけるように働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の希望に添った生活ができるように心掛けている業務優先の介護はしないように心掛けている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「おしゃれに、美味しく、お付き合い」が当法人のグループホームのモットーである。身だしなみにも心配りはしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の方針でタイリョウから給食が送られてくるがさらに食べやすいように工夫して食卓に提供している。料理に参加されるかた、片付けに参加されるかたそれぞれ手伝っておられる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>ミキサー食の方は水分量や食事量を記録している。夏季は熱中症予防のために水分補給の機会を1日9回設けている</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>自立している方は食後口腔ケアを自発的にされているが介護度高い方はスタッフが誘導し毎食後行っている又毎週契約歯科医院が来ホームし、口腔ケアしてくれている</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>リハビリが取れた方もあるが介護度がすすみリハビリに移行された方もいる。トイレでの排泄ができるよう誘導時間を見極めて支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防のために水分補給に力を入れている。食材など牛乳・ヨーグルトの摂取に心掛けている</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>当ユニットでは3日に1度、全入居者に公平に入浴していただいている。早番が5時上がりなのでそれまでに入浴を終えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中眠たい方はベッドで自主的に寝ておられ、介護度の高い方はスタッフが見極めてベッドにお連れしている。就寝も各自の意思を尊重しお好きな時に入床されている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬が処方されると個人ファイルに薬情報が綴じられ、随時閲覧できる。薬変更時には医師や薬剤師の説明があり申し送りノートに記し全スタッフに周知してもらっている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>料理好きの方にはキッチンで活躍していただき、看護師だった方には毎日のバイタル測定を手伝ってもらっている。又レクの時間や外出の時を作って気分転換をはかっている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>中庭に入居者は自由に出入りし、健康のため自主的に1周300mを歩いたりもする。外出好きの方には買い物同行していただき、家族との外食お出かけも積極的に支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が難しくなっておられる方が多いので当施設ではお預かりするシステムとなっている。自立の高い方で個人の財布を所持しておられる方もおられるが。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の御了承のもと、電話や手紙のやり取りの支援は積極的に行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り不要なものは省き、居心地の良い家具とオーナメントを施し、卓上には季節の花が絶えない様にしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファが2台設置されておりめいめい好きな場所に座りおのずと場所が決まっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実践している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の無いフラットな平屋で廊下・浴場・居室のトイレには手すりほどこさされている建物中央にはキッチンリビング食卓があり自由に過ごせるようになっている		